

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書(1)

岐阜県立関特別支援学校

学校番号	113
------	-----

自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創意ある教育実践を通して、豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。
評価する領域・分野	学習活動・家庭や地域との連携
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「礼儀正しさ」「親近感」「愛情」「社会常識」「信頼感」といった人間性、「実態把握」「的確な授業」といった専門性について、教職員として必要な研究と修養の「研修」における両側面において肯定的評価の低下が目立った。 ・ 「特色ある教育活動」「教育方針・指導内容・自己評価の説明」「教材教具の準備」「情報手段能力の向上」で、肯定的評価の上昇が見られた。しかし、「教育方針・指導内容の共感」で、肯定的評価の低下及び評価不能の上昇が目立った。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「健康・安全を守る研修」「専門性向上の研修」「授業力向上の研修」「課題解決能力向上の研修」等、学校の課題に応じた校内研修を計画的、組織的に行う。 ・ 自発的な学習を促すよう、ICTの活用や体験的な学習を重視し、発達段階や障がいの状態に応じた指導内容及び方法、評価、教材教具の工夫改善に努める。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究推進委員会（年4回） ・ 全校研究会（年3回）
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当分掌の企画及び運営による職員研修会（全教職員参加の悉皆研修） ・ 教職員の個々のニーズに応じた自主研修会（必要に応じた希望研修） ・ 校外における研修機会のWeb上インフォメーションでの積極的な情報発信
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員に対する学習支援及び生活支援に関する保護者の苦言状況 ・ 自主研修会への教職員における参加状況 ・ 摂食指導に対する教職員の認識の変化
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「校長と語る会」を開催して生の保護者の意見を聴取 ・ 研究助成による視線入力装置の研修会実施と日々の授業への導入 ・ 摂食に関わる校内研修を実施するとともに外部講師による指導の実施
評価の視点	評価
①教職員に対する学習支援及び生活支援に関する保護者の苦言等は減少したか。	A B Ⓒ D
②視線入力装置等を始めとして教職員の創作教材教具による授業は増加したか。	A Ⓑ C D
③摂食指導における教職員の安全確保に向けた取り組みは多く見られるようになったか。	A B Ⓒ D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ▲教育課程別の教職員集団において柱となる者が乏しく保護者からの苦言が依然目立つ。 ○教職員において新たな取組に挑戦しようとする者が見られるようになった。 ▲支援方法における基礎・基本的な知見に乏しく目的意識をもった教育実践が必要である。 	A B Ⓒ D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理職がイニシアティブをとった学年別または教育課程別の保護者懇談会の開催 ・ 学習指導略案を用いた全教職員における年1回の研究授業の実施 ・ 全教職員が「一人一研究」に取り組みそれを基にした自主研修会の活性化

学校関係者評価 (令和2年1月27日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員における対人コミュニケーション能力向上のための職員研修が必要である。 ・ 保護者におけるネガティブな評価への対応も重要だが、評価不能の評価を減らす取組も重要である。
-----------	--

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書(2)

岐阜県立関特別支援学校

学校番号	113
------	-----

自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創意ある教育実践を通して、豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。
--------	---

評価する領域・分野	安心・安全な学校生活
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「安全配慮義務の履行」「緊急時の対応」で、肯定的評価の若干上昇とともに、評価不能も若干減少した。 ・ 「施設・設備の安全留意」「快適な環境維持」で、肯定的評価が若干低下する一方で、評価不能が若干上昇した。 ・ 「体罰の防止」「いじめや差別への対応」で、肯定的評価が上昇した。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康被害や事故災害の未然防止を目指した安全教育に努めるとともに緊急時の救急体制を充実する。 ・ 自主的に判断して行動し、自らの行動に責任をもつ態度や積極的に自己を生かす力を育てるための指導に努める。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部主事会（原則毎週開催） ・ いじめ防止対策委員会（年2回開催）
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全配慮義務を完全履行できるチェック体制の整備 ・ 当校の実情に応じた危機管理マニュアルの整備 ・ 各部で起きている児童生徒間のトラブルを全教職員にて情報共有
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設設備において修繕修理等を要する箇所の迅速かつ正確な報告と対処 ・ 県教育委員会学校安全課の指導に基づく当校に合った危機管理マニュアルの整備 ・ 児童生徒間の人間関係に基づく心情の全教職員による共有
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理職にまで学校施設設備の現況が行き届く安全点検を毎月実施 ・ 本来昨年度完成済みであるべき危機管理マニュアルを当校の実情に合わせて完成 ・ 児童生徒における「いじめアンケート」の結果を職員会議において情報共有
評価の視点	評価
①学校施設設備において修繕修理等を要する箇所を的確に把握し迅速に対応できたか。	(A) B C D
②県教育委員会の指導に基づく当校に合った危機管理マニュアルの整備ができたか。	A (B) C D
③児童生徒間の人間関係に基づく心情を全教職員によって共有できたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○修繕修理等を要する事柄に対して自分たちで対応する姿も見られるようになった。 ○試案段階ではあるものの当校の実情に応じた危機管理マニュアルを完成できた。 ○各部の垣根を越えて全教職員が目で見守ろうという意識が高まった。 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災担当の担当分掌とPTA執行部会とが協働した防災対応の具体的検討 ・ 危機管理マニュアルの全教職員への周知徹底と危機管理委員会の在り方の検討 ・ 職員会議や終礼等の全教職員が集まる機会での日常的な児童生徒の情報共有化

学校関係者評価 (令和2年1月27日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危機管理マニュアルが実際役立つものであるか、保護者、地域住民を交えた多角的な検討が必要である。 ・ 緊急時のことも含め、普段より地域住民と顔馴染となるような関係づくりが必要である。
-----------	---

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書(3)

岐阜県立関特別支援学校

学校番号	113
------	-----

自己評価

学校教育目標	・ 創意ある教育実践を通して、豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。
--------	---

評価する領域・分野	キャリア教育	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「進路に関する連絡や情報提供」では、昨年度と評価の変動はほぼなかった。 ・ 「個性・能力の伸展」「社会自立・職業自立に向けた進路指導」で、肯定的評価が上昇、評価不能が若干減少したものの、否定的評価も若干上昇した。 ・ 「関係者意見反映の個別の教育支援計画」「障がい児教育のセンター的役割」で、肯定的評価が低下し、評価不能が上昇した。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・ 社会参加、自立を目指して家庭及び地域や福祉・労働等関係機関と連携した進路指導・就労支援体制の充実に努める。	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア支援委員会（年1回） ・ 移行支援会議（個別：適宜） 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路に関する関係機関の最新情報を本人並びに保護者へ提供 ・ 現場実習における関係機関の関係者との綿密な連携 ・ 卒業後に向けた関係機関の関係者との綿密な連携 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報保護に留意した上での関係機関の関係者との円滑な情報共有 ・ 現場実習における主たる支援者の学校から関係機関への移行 ・ 卒業生全員の希望する進路先への移行 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場実習に向けた事前の丁寧な打ち合わせと情報提供 ・ 現場実習において担任や進路指導部員を中心とした適切な支援の定着 ・ 現場実習や体験学習の結果及び評価に基づいた柔軟な支援会議の展開 	
評価の視点		評価
①個人情報保護に留意しつつ関係機関と円滑な情報共有が事前に共有できたか。		Ⓐ B C D
②現場実習において学校教職員の支援を徐々に減らし関係機関の関係者へ移行できたか。		A Ⓑ C D
③全学部の卒業生全員が希望する進路先へと移行できたか。		A Ⓑ C D
成果・課題		総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報の紛失を生ずることなく関係諸機関との必要な情報共有が推進できた。 ○現場実習において教職員の付添時間を徐々に減らし関係諸機関の関係者に委ねられた。 ○全学部の卒業生全員が途中進路変更はあったものの本人の希望する進路先へ進めた。 		A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア支援部とPTA広報委員会とが協働した児童生徒のキャリア発達支援 ・ 関係機関と教職員との懇談会機会を設けお互いの顔が見える関係の構築 ・ 保護者や関係機関に負担とならない使いやすい個別の教育支援計画への修正 	

学校関係者評価 (令和2年1月27日実施)

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に高等部の早い段階から、卒業後に社会人としての振舞いができるよう対応していく必要がある。 ・ 卒業後の追支援や在校生の体験実習は、卒業生にとっても意義深いものがあり、意図的な継続が望ましい。